

																				明治時代																			
															一八七二年	一八六八年	一八六七年																						
															学制公布		大政奉還																						
															市町村制施行																								
一八九三年	一八九二年	一八九〇年	一八八九年	一八八七年	一八八六年	一八八五年	一八八三年	一八八〇年	一八七九年	一八七八年	一八七七年	一八七六年	一八七五年	一八七四年	一八七三年	一八六九年	一八六八年																						
原山分校廃止	中和束村に和束高等学校設立	園村尋常小学校が東和束尋常小学校と改称	釜塚校が中和束尋常小学校と改称	置離。石寺に第一小学校、白栖に第二小学校設置	西和束校が西和束第一・第二尋常小学校に分	湯船分校が独立して湯船尋常小学校となる	町に編入される	田村新田は井手町に編入され、田村校も井手	湯船村は単独	る園村・中村・門前村・原山村が東和束村とな	和束村となる	別所村・木屋村・杣田村・南村・釜塚村が中	となる	白栖村・石寺村・撰原村・下島村が西和束村	湯船村と童仙房村の境界が確定する	なる村尋常小学校設置。原山校と湯船校は分校と	斉明校・原山校・湯船校が合併して園村に園	となる	石寺に西和束校設置。田村校は西和束分教場	撰原校・石寺校・白栖校・田村校が合併して	木屋校が釜塚分校となる	山争論の大審院判決が下る	和束と井手村・綺田村・平尾村・瓶原郷との	湯船村と童仙房村で境界の争論が起こる	和束と銭司村・切山村との間で山争論和解成立	司村・切山村との山争論が始まる	和束と井手村・綺田村・平尾村・瓶原郷・銭	園校と門前校が合併して園村に斉明校設置	白栖村に白栖校設立	原山村・門前村・園村に学校設立	湯船校校舎建設	撰原村・石寺村・田村新田・木屋村に学校設立	湯船村の寺院が仮校舎となる	釜塚村に釜塚校設立	和蔵、喜八郎等が開拓用掛をつとめる	童仙房の開拓が始まり、原山村の卯右衛門、	が廃寺となる	神仏分離によって和束天満宮神宮寺の大宮寺	水害の記録あり